

大阪を歩く（京街道編）～枚方宿・守口宿を中心に～

田中 睦彦

【目的】

京街道を実際に歩いて見て、京阪間の一般的にまだ知られていない、おすすめの観光スポットや観光資源を再発見する。

【内容】

- ・京街道のあらまし
 - ・ 豊臣時代：伏見城と大阪城を結ぶ陸路として、淀川左岸に文祿堤を築く。
 - ・ 江戸時代：東海道の延長として、枚方宿・守口宿が整備され、宿場町として発展した。
- ・各市町村の京街道の観光としての取り組み
 - ・ 道しるべ ・ 町並み景観 ・ イベント
- ・各地に伝わる昔話
 - ・ 茨田堤の衫子絶間：仁徳天皇時代の人柱伝説
 - ・ 鶴の恩返し：別子山の鈴見伝説
 - ・ 阿弋流為：蝦夷の首長アテルイの終焉の地伝説
 - ・ 亀の恩返し：亀に助けられた赤ん坊は、のちの山蔭卿伝説

【結果】

[おすすめの観光スポット]

- ・ 高麗橋～守口宿間：高麗橋・京橋・野江水神社・関目の七曲り
- ・ 守口宿：難宗寺と盛泉寺・大塩平八郎ゆかりの地・江戸川乱歩寓居・一里塚
- ・ 守口宿～枚方宿間：茨田堤・光善寺
- ・ 枚方宿：鍵屋・御茶屋御殿・鋳物工場跡・別子山鈴見の松
- ・ 枚方宿～樟葉間：片埜神社・アテルイ塚・楠葉台場跡・久修園院

[提案]

- ・ 非公開社寺特別公開の日を設け、宝物等を一般に知ってもらう。
- ・ 淀川堤防に松並木を再現する。
- ・ 一里塚や高札場を復元し、旧街道の存在を知らせる。
- ・ 道しるべやカラー舗装道路などで街道をわかりやすくする。
- ・ 本陣等の復元を図り街道交流館・ミュージアム等として活用する。

1 紹介したい京街道の観光スポット

(1) 高麗橋～守口宿

① 高麗橋：大阪市中央区東高麗橋

江戸時代幕府の管理する公儀橋だった。西詰に櫓屋敷や高札場があったほか、諸方への距離をはかる起点にもなっていた。

② 八軒家浜：大阪市中央区天満橋京町

京都と大阪を結ぶ三十石船が発着する船着場があり、淀川約 45 km を上り 1 日、下り半日で運航していた。

③ 京橋川魚市場跡：大阪市都島区片町

大阪城の北を流れる寝屋川に京橋が架けられている。昔川魚を扱う市場がこの京橋にあった。

④ 野江水神社：大阪市城東区野江

戦国武将三好政長の榎並城内に祀られていた神社。近くに榎並城跡及び榎並猿樂発祥の地碑がある。

⑤ 関目七曲り：大阪市旭区高殿

大阪城の防備のため、蛇行するようにつくられた街道で、近くの関目神社には関目（目で見える関所）発祥の由来碑が立つ。

(2) 東海道 5 7 次守口宿

① 文禄堤：守口市本町

長さ約 27km あった文禄堤は、度重なる淀川の改修で堤の多くは姿を消し、ここ守口にのみ面影を残している。

② 幻の大阪遷都ゆかりの寺 難宗寺：守口市竜田通 盛泉寺：守口市浜町

慶応 4 年 3 月 22 日明治天皇が大阪へ行幸されたおり、難宗寺に宿泊した。これは大久保利通の進言による大阪遷都の意思を持った行幸なので三種の神器の一つ八咫鏡を伴い盛泉寺の本堂前に賢所を奉安された。しかし、4 月 11 日江戸無血開城が実現し大阪遷都は幻とかし、一転して江戸遷都となった。

今も、難宗寺には明治天皇玉座の間が残る。大正天皇も皇太子時代にここに立ち寄り大阪に行幸した。

③ 大塩平八郎ゆかりの書院跡：守口市竜田通

白井家当主は豪農で大塩の私塾洗心洞の有力門人として、経済的な支援を行っていた。大塩はこの白井家でも、守口近郷の農民達に講義したと伝わる。

④ 名探偵明智小五郎誕生の地：守口市八島町

江戸川乱歩は 27 歳の 大正 9 年守口市に移り住み、妻子とともに守口市や門真市の借家 5 軒を転々として暮らした。

乱歩が大正 14 年に書いた名探偵明智小五郎が初めて登場する『D 坂の殺人事件』には、京阪守口車庫の柵のアイデアがトリックに使われた。

⑤ 一里塚跡碑：守口市浜町

街道の両側一里ごとにその目印として設けられ、旅人の便をはかった。京街道で一里塚跡の碑があるのは、ここ守口宿の上見附のみである。

(3) 守口宿～枚方宿

① 伝茨田堤碑と杵子伝説：寝屋川市・門真市・大阪市旭区

日本書紀の仁徳天皇の条に茨田堤の築造のことがでていますが、それには二か所の難所があつて、人柱をたてて堤を完成させようとした。武蔵国の強頸は犠牲になったが、茨田連杵子は機智をもっていけにえになることを免れた。

② 蓮如上人ゆかりの光善寺（市史跡）：枚方市出口

本願寺8世蓮如上人が建立した御坊で、ここを拠点として摂津・河内・和泉で布教活動を行い、3年後山科本願寺に移った。

数寄屋風書院や石川丈山作庭の庭園、さいかちの木（府天然記念物）など見どころが多い寺院である。

(4) 東海道56次 枚方宿

① 明治18年淀川洪水碑（市登録有形文化財）：枚方市桜町

西見近くの新川には、明治18年淀川洪水碑や郵便屋の渡し跡碑がある。

② 鍵屋資料館：枚方市堤町

枚方宿の代表的な船宿「鍵屋」は、今は市立の資料館である。

③ 万年寺山の御茶屋御殿：枚方市枚方上之町

天下茶屋が枚方にもあつた。太閤秀吉は京都伏見城と大阪城を行き来する際、万年寺山の中腹に御殿をたて休憩をした。

江戸時代に入ると2代将軍徳川秀忠や3代徳川家光も逗留したと記録に残されており、今は公園で眼下には本陣跡の三矢公園もあり、淀川も見渡せる。

④ 鋳物工場跡とムクノキ：枚方市枚方上之町

代々鋳物師として繁栄した田中家の鋳物工場（府有形文化財）があつた。現在、旧主屋（府有形文化財）とともに枚方市立旧田中家鋳物工場民俗資料館として枚方市藤阪に移築され公開されている。

ムクノキ（府天然記念物）が工場跡に残る。葉が鋳物の研磨に用いられた。

⑤ 別子山の鈴見伝説（鶴の恩返し）：枚方市岡南町

一乗寺の地蔵尊縁起によると親孝行な鈴見青年は仕事の帰りに鶴を助ける。後日若い女が訪ねてきて母親の看病をした。母親が亡くなると、二人は夫婦になり、男の子が生まれ、5歳になった男の子に、母は別れを告げ天上界に帰った。聖徳太子が親孝行の鈴見に地蔵像をあたえる。父子は富貴になり、長生きをし、大往生を遂げた。

(5) 枚方宿～楠葉

① 交野ヶ原の七夕伝説：枚方市の観音寺山公園、交野市の機物神社

平安貴族の遊獵の地であつた交野ヶ原には天野川が流れていた。貴族たちは、七夕伝説にちなんだ多くの歌を詠んだ。

今でも橋の名前に天津橋や鶴橋など七夕にちなむ名前を付けたり、「おりひめちゃん」「ひこぼしくん」などのマスコットキャラクターをつくられ、観光イベントに活躍している。

② 一之宮片埜神社：枚方市牧野阪

本殿（国の重要文化財）は、豊臣秀頼が再建したもので、華麗な桃山様式をよく示している。東門・南門・石造灯籠（府有形文化財）。

③ 阿弋流為と母禮の塚：枚方市牧野阪

牧野公園にある塚は、坂上田村麻呂に降伏し、この地で処刑されたとする蝦夷の首長である二人を顕彰する塚である。

④ 楠葉台場（国の史跡）：枚方市楠葉中之芝

京都に侵入する外国船に備える目的で、設計の総責任者として勝海舟が命ぜられ、砲台が築かれた。

⑤ 久修園院のお堂（亀の恩返し）：枚方市楠葉中之芝

藤原高房が淀川を下った。ひとりの鵜匠が亀を捕えて殺そうとしていた。憐れに思った高房は亀を買取り水中に放してやった。

さて、同じ船に乗っていた愛児の継母は、児を亡き者にしようと、乳母に命じ、故意に児を河中に落とした。高房は悲嘆にくれるばかり、今は神仏にすがるほかなく、常に信仰する久修園院の方を伏し拝んだところ、先刻助けた亀がその甲羅に愛児を乗せて浮かび上がってきた。この幼児こそ後の山蔭中納言だと伝える。

2 宝物等を公開して欲しい神社仏閣等

① 枚方市の久修園院：天球儀（市有形文化財）・地球儀（市有形文化財）・愛染明王像・両界曼荼羅・亀のお堂

② 枚方市の関西医科大学牧野キャンパス：講堂の天井画「双龍図」、「十二支図」

③ 枚方市の一乗寺：天の川鈴見地藏尊縁起

④ 枚方市の浄念寺：旧万年寺の本尊不動明王像（市有形文化財）

⑤ 枚方市の意賀美神社：豊中市の岩田貫斎奉納の算額（市有形民俗文化財）

⑥ 枚方市の光善寺：蓮如上人像・数寄屋書院・庭園・さいかちの木(府天然記念物)

⑦ 寝屋川市の鞆呂岐神社：絵馬

⑧ 守口市の難宗寺：玉座の間

⑨ 守口市の守居神社：刀匠備中守橋康広の「刀一口」

⑩ 守口市の佐太天神宮：菅原道真自作の木像

⑪ 守口市の来迎寺：後村上天皇肖像画・幽霊の足跡・八幡曼荼羅図（国の重文）

⑫ 守口市の光明寺：本尊十一面観音立像（国の重文）

【参考文献】

『京街道』横井三保著（2002）、『東海道枚方宿と淀川』中島三佳著(2003)、『河内名所図会のおもしろさ』森田恭二編著（2010）、『枚方の歴史』瀬川芳則・西田敏秀・馬部隆弘・常松隆嗣・東秀幸著（2013）、『ふる里守口を訪ねて』駒井正三著（1991）、『大阪の伝説』庄野英二・中村浩著(1976)、『交野ヶ原と七夕伝説』天の川七夕星まつりの会（2000）、『河内今昔事典』富田寅一著(2001)